

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET	13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達
5. 幼児期から青年期における現代の発達課題
6. 認知発達、認知機構の変遷
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11. 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12. 学習成果の可視化
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14. 発達障害の理解と支援
15. まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	ET	13850	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	市教委指導課指導主事		

授業の到達目標

学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について学ぶ。この教育課程の意義や編成の方法を理解し、カリキュラム編成の基礎を習得することで、カリキュラムマネジメントの意義や重要性を考察する。そして、総合的な学習の時間について実際の学校での実践例を参考に、自らも教育課程の模擬編成を試みる。この講義ではKAISEIパーソナリティ-I（知性）を養い、自ら考察した教育課程をプレゼンテーションする過程でA（自律：発信力）を習得する。

授業の概要

教育課程の原理を学ぶ中で、公的な性格を有する学習指導要領の意義を考察する。そして、総合的な学習の時間の変遷や教育課程の歴史等において諸外国との比較をしながら現行の特徴や各時代の改訂の意図を考察する。最後に総合的な学習の時間を中心とした教育課程の模擬編成も試みる。

授業計画

1. はじめに、教育課程とは
2. 教育課程に関する法制度について
3. 教育課程の歴史について（前半）
4. 教育課程の歴史（後半）と総合的な学習の時間の誕生について
5. 中学校・高等学校の教育課程について
6. 総合的な学習の時間の実践例（前半）
7. 総合的な学習の時間の実践例（後半）
8. 総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメントのあり方
9. 教育課程の編成と学校教育評価について
10. 学校種間の連携と教育課程について
11. 地域社会との連携と総合的な学習の時間のあり方
12. 今日的な課題と教育課程の関係
13. 諸外国の教育課程と教育課程の模擬編成（前半）
14. 諸外国の教育課程と教育課程の模擬編成（後半）
15. 教育課程のプレゼンテーションと未来の学校教育における教育課程の考察

授業の方法

レジュメに従って授業を行い、毎回レポートの提出を求める。

準備学修

文部科学省HPより、「教育課程特区」の情報を検索し、読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総則編）」最新版
文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）」最新版

参考図書

文部科学省編「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」教育出版

留意事項

毎回の授業中に資料等を配布する。

教員連絡先

mhorii@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリング)を含む)	教職中等	13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公立小教員		

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）を養う。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりには欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例

から学ぶ。

14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。
講義後に試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等	13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	市教委指導課指導主事		

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーI（知性）を養い、プレゼン等の過程でK（思いやり）の諸能力を生かす。

授業の概要

レジュメを中心に教科書「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」を参考資料に授業を進める。道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

授業計画

1. はじめに・道徳教育の基礎理論
2. 道徳教育の歴史(江戸～明治～戦前)
3. 道徳教育の歴史(戦後～現代)
なぜ「特別の教科」なのか
4. 「特別の教科」道徳の目標について
5. 道徳教育と教育課程の関連について
6. 生徒の心理と道徳教育の関わり
7. 学校における道徳教育指導体制
8. 道徳教育の指導計画について
9. 道徳教育指導法(内容項目の詳細)
10. 道徳教育指導法(指導案の書き方)
11. 道徳教育指導法(ロールプレイ)
12. 保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
13. 中学校・高等学校における道徳教育
14. 諸外国の道徳教育事情
15. 道徳教育の今日的な課題、まとめ

授業の方法

レジュメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

幼いころの作文や文集があれば見ておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

教員連絡先

mhorii@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族やその生活の研究に必要な基礎知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

家族への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この演習では、女性の晩婚化、少子化、仕事と家族的責任（育児や介護等）の調和、親子関係、きょうだい関係、離婚、再婚など、家族をめぐる様々なテーマに、学際的に接近したい。まず演習Iでは、家族社会学を中心とした家族研究の基礎知識を身に付ける。歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶ。

授業計画

1. 家族とは
2. 家族研究の方法 1
3. 家族研究の方法 2
4. 研究テーマの設定
5. 文献・資料の収集と整理
6. 家族の研究論文を読む 1
7. 家族の研究論文を読む 2
8. 家族の研究論文を読む 3
9. 家族の研究論文を読む 4
10. 個人研究の発表 1
11. 個人研究の発表 2
12. 個人研究の発表 3
13. 個人研究の発表 4
14. 現代の家族問題
15. まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係（家族、仲間、教師、保護者、組織）における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント等、子ども(人)を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ケーススタディーその1 子ども
3. ケーススタディーその2 子ども
4. ケーススタディーその3 保護者等
5. ケーススタディーその4 保護者等
6. 共有するテーマの絞り込みその1
7. 共有するテーマの絞り込みその2
8. 各自が研究の方向性について報告・意見交換その1
9. 各自が研究の方向性について報告・意見交換その2
10. kj法によるテーマ分類1 小表札討議
11. kj法によるテーマ分類2 中表札討議
12. グループ発表準備1
13. グループ発表準備2
14. 発表会
15. 総括

授業の方法

講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもとり入れて、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

準備学修

日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する

参考図書

必要に応じて紹介する

留意事項

自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求められることがある。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族研究の基礎を学び、卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

演習Ⅰに引き続き、家族研究のための基礎知識を学ぶ。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、家族やその生活についての理解を深める。

授業計画

1. 現代家族の問題
2. 先行研究を学ぶ 1
3. 先行研究を学ぶ 2
4. 先行研究を学ぶ 3
5. 先行研究を学ぶ 4
6. 先行研究を学ぶ 5
7. 先行研究を学ぶ 6
8. 調査・研究の報告 1
9. 調査・研究の報告 2
10. 調査・研究の報告 3
11. 調査・研究の報告 4
12. 調査・研究の報告 5
13. 調査・研究の報告 6
14. 調査・研究の報告 7
15. まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

授業計画

1. 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
2. 各自の興味関心を聞き合う。
3. 各自の興味関心の集団討議
4. 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
5. 研究計画・文献・資料に関する指導1
6. 研究計画・文献・資料に関する指導2
7. 研究計画・文献・資料に関する指導3
8. 研究テーマの検討と討議1
9. 研究テーマの検討と討議2
10. 研究テーマの検討と討議3
11. 各自の研究進捗報告会1
12. 各自の研究進捗報告会2
13. 各自の研究進捗報告会3
14. 卒業研究に向けての質問会
15. まとめ

授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

漠然とした研究のテーマを先行文献や資料を読み深めることで、具現化する。仲間の研究過程を聞き合い、コミュニケーション能力も身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

参考図書、先行文献、関連資料の収集から始めてそれらの考え方の類似、相違を模索しながら、発見と納得による研究を進める。

授業計画

1. テーマについて
2. 先行文献について知る
3. 先行文献の感想を発表し合う 1
4. 先行文献の感想を発表し合う 2
5. 問題と目的を明らかにする
6. 問題と目的について討議する 1
7. 問題と目的について討議する 2
8. 問題と目的について討議する 3
9. 問題と目的について討議する 4
10. 研究の方法を知る
11. 個々の研究方法を討議する 1
12. 個々の研究方法を討議する 2
13. 個々の研究方法を討議する 3
14. 個々の研究方法を討議する 4
15. 卒業研究のアウトラインを完成させる

授業の方法

学生相互で討議しながら、互いの考え方を客観的に捉えることができるようにする。

準備学修

テーマに関連するニュースや資料を、出典を明確にして収集すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

必要に応じて指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(知性)、I(知性)、E(倫理)を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見通しをもつようにする。

授業計画

1. 演習Ⅲの進め方について
2. 卒業研究・論文のまとめ方について
3. 研究対象と調査期間について
4. 研究方法と分析方法について
5. 調査の進捗報告と討議①
6. 調査の進捗報告と討議②
7. 各自の先行文献調査のまとめ①
8. 各自の先行文献調査のまとめ②
9. 「問題と目的」の発表・討議①
10. 「問題と目的」の発表・討議②
11. 「研究方法」の発表・討議①
12. 「研究方法」の発表・討議②
13. 仮説と今後の見通しについて発表・調整①
14. 仮説と今後の見通しについて発表・調整②
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への発言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえてテーマを確定し、研究計画を立案して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を育成する。

授業の概要

研究計画をもとに、文献や資料等の収集と読書に努め、研究テーマに沿って、主体的に研究を進めていく。また互いの研究文をもとに協議し、考察を深められるようにする。

授業計画

1. 研究テーマと研究方法の確認(1)
2. 研究テーマと研究方法の確認(2)
3. 研究計画の立案(1)
4. 研究計画の立案(2)
5. 各自の研究内容について発表とディスカッション(1)
6. 各自の研究内容について発表とディスカッション(2)
7. 各自の研究内容について発表とディスカッション(3)
8. 各自の研究内容について発表とディスカッション(4)
9. 各自の研究内容について発表とディスカッション(5)
10. 研究の進捗状況について報告(1)
11. 研究の進捗状況について報告(2)
12. 研究の進捗状況について報告(3)
13. 研究の進捗状況について報告(4)
14. まとめと今後の展望(1)
15. まとめと今後の展望(2)

授業の方法

研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で

評価・助言を行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

留意事項

研究テーマに関する文献や資料を主体的に収集すること。発表当日は必ず資料を持参すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

自分のこだわり・気がかりを大切にテーマを決める。そのテーマにそって研究を続けながら文章表現の力もつける。それらの成果を卒業研究としてまとめる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)A(自律)を育成する。

授業の概要

個々のテーマに即してディスカッションを多く採り入れて指導する。さらに、正確な情報を選択、採用する資質能力を養い卒業研究を完成させる。

授業計画

1. 卒業研究の概略説明
2. 卒業研究の計画、作成の確認
3. 卒業研究の報告と討議 1
4. 卒業研究の報告と討議 2
5. 卒業研究の報告と討議 3
6. 卒業研究の報告と討議 4
7. 卒業研究の報告と討議 5
8. 卒業研究の報告と討議 6
9. 卒業研究の報告と討議 7
10. 卒業研究の報告と討議 8
11. 卒業研究の報告と討議 9
12. 論文推敲 1
13. 論文推敲 2
14. 最終報告と討議
15. まとめ

授業の方法

学生同士で論文の方向性や課題を発表し合い、コミュニケーション能力を高める手立てとする。

準備学修

選考文献を多く収集し、熟読すること

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

個々に応じて指示する

参考図書

個々に応じて推薦する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとつての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

授業計画

1. 精神機能を発生的に把握するという事 生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握するという事 遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)・運動の発達
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)・言語の発達
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)・認知の発達
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規則に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館
川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、幼児期の教育・保育の歴史の変遷や現在の取り巻く状況を理解する。また、基礎的・総合的に幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて理解する。この科目ではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進め、情報機器及び教材の活用を図りながら、具体的な場面を想定した指導実践力の基礎作りをしていく。

授業計画

1. 保育の基本(1)幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
2. 保育の基本(2)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性について
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特徴
5. 環境を通して行う教育、遊びを通しての総合的な指導(情報機器及び教材の活用を含む)
6. 養護と教育、乳児保育、長時間保育
7. 保育内容 5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
8. 遊んでみよう(1)歌って手遊び(教材収集)
9. 遊んでみよう(2)歌って手遊び(教材研究)
10. 遊んでみよう(3)歌って手遊び(グループ発表)
11. 保育の展開(1)発達や学びの連続性、小学校教育との円滑な接続
12. 保育の展開(2)保護者との連携、家庭生活との連続性
13. 保育の展開(3)子育ての支援、多文化共生の保育
14. 保育の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
15. 乳幼児期の保育・教育を取り巻く現状と課題、定期試験

授業の方法

講義を中心とするが、情報機器や教材を活用するとともに、ワークやグループディスカッションなどを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①授業内で小テストを5回程度実施し、フィードバックを行う。
- ②ワークシート25% 授業に臨む姿勢25% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学賞)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「あそびうた大全集200」(細田淳子、永岡書店)「実践造形あそび」(ナツメ社)

参考図書

幼稚園教育指導資料 第5集「指導と評価に生かす記録」(チャイルド社)
「ようちえん あしたもいきたいな」(全国公立幼稚園長会)

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	PC	17411	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達
5. 幼児期から青年期における現代の発達課題
6. 認知発達、認知機構の変遷
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11. 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12. 学習成果の可視化
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14. 発達障害の理解と支援
15. まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽1	①/②/③/④/⑤	17417	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
由井 敦子／南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を修得することがねらいである。子どもの発達や現代の環境等を踏まえ、幅広い表現活動が展開できる保育者・指導者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード習得のための音楽理論を中心に、読譜に必要な音楽記号の基礎知識を学習する。「歌唱・弾き歌い」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、明瞭な日本語で表情豊かに歌えるようにするとともに、学習したコードによるコード伴奏での弾き歌いの演習をする。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 音楽表現活動について。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声と子どもの歌の歌唱法。進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. まとめと試験。

授業の方法

前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行

い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
②平常点70% 定期試験30%
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる歌唱・コード等の小テストは平常点に反映する。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」(YAMAHA MUSIC MEDIA)
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー2 5の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

入学時にピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリング)を含む)	教職小		17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標
 小中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)、I(知性)、S(奉仕)をめざす。

授業の概要
 学校園における教育相談の意義、実態、課題について知り、チームで対応できる必要性を理解する

授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専

門職との連携の必要性を理解する。
 講義の後試験を実施

授業の方法
 講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修
 子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 学内規定に準ずる

テキスト
 必要な場合授業時に指示する

参考図書
 授業時に紹介する

留意事項
 本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先
 shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援と地域社会			17501	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標
 子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割がこれまでになく明確化される中で、幼稚園や保育所はどのような子育て支援ができるのか、保育所や地域社会での子育て支援に積極的に取り組んでいける実践力のある教諭、保育士をめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)とS(奉仕)を考え、I(知性)を養います。

授業の概要
 子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園・保育所・地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目ざしている学生が、地域社会で取り組まれている様々な子育て支援の実状を知り、なぜ子育て支援が必要なのか、親子が求めている支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践の場にも積極的に参加し体験する。

授業計画

1. 子育て支援とは何か。(DVD視聴「子育て支援とは」)
2. 子育て支援の意義(1)
3. 子育て支援の意義(2)
4. 地域子育て支援センターの役割
5. 子育て支援の基本的姿勢と基本的技術
6. 地域子育て支援事業拠点における支援
7. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(1)
8. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(2)
9. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(3)
10. 幼稚園での子育て支援の取り組み
11. 保育所での子育て支援の取り組み 保育所の子育て支援の実態
12. 家庭の役割、親子が求めている支援とは
13. 子育ての変化と子育て支援の必要性
14. 園内、園外との連携と社会資源 まとめ
15. 振り返り 試験

授業の方法
 講義と演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修
 Webで参照すること。

課題・評価方法
 レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト
 必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書
 子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
 世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
 地域で子育て 渡辺頭一郎編著
 あそびうた大全集 永岡書店

留意事項
 実際の支援の様子を見学・参加するフィールドワークを多く取り入れ、子育て支援の理解を深める。フィールドワークが多いので、授業計画についてはかなり変更がある為、日程については授業課の前を常に見ておく。受講者は子育て支援に関心のある者。また、灘区の子育て支援事業への参加については、10月第2、第4土曜日に行うので、必ず日程調整できるようにしておくこと。

教員連絡先
 shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

1. 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
2. 保育士・教師としてできる個別配慮
3. 介助者が加わったときの役割
4. 室内トラブルへの対応その1解決のポイント
5. 室内トラブルへの対応その2立ち歩きやエスケープ
6. 室内トラブルへの対応その3人間関係のトラブル
7. 室内トラブルへの対応その4パニックを起こしたときの対処
8. 保護者とともに子どもを育てるその1保護者面談の進め方
9. 保護者とともに子どもを育てるその2親から学ぶ支援のあり方
10. 周りの子どもやその保護者への対応その1周辺の子ども
11. 周りの子どもやその保護者への対応その2保護者に対して
12. チーム支援その1確かな情報を共有する
13. チーム支援その2実態の把握方法
14. チーム支援その3組織的支援の進め方
15. 学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2				

授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針について基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。

授業計画

1. 保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
3. 保育に関する諸法令からみる保育の原理
4. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(1)
5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(2)
6. 養護と教育の一体化について
7. 保育実践の基本的構造について
8. 多様な保育内容とその方法
9. 子育て支援について学ぶ
10. 西洋と日本の保育の創成期
11. 西洋の保育実践の発展過程
12. 日本の保育実践の発展過程
13. 児童中心主義の保育を探る
14. 保育者の在り方を考える
15. これからの保育にむけて
まとめを行ってから試験をする

授業の方法

前回の講義を振り返り、講義、討論、確認小テストで構成される。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点30%確認小テスト20%定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

佐伯一弥・金瑛珠「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員・学校心理士			

授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画

1. 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
2. 教育方法をより深く理解するために日本と諸外国とを比較して学ぶ。
3. 授業と教育方法の基本原則の一つとして系統学習と問題解決学習を理解する。
4. 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
5. 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
6. 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
7. 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
8. 聞き手によくわかる話し方(話法)について基礎的な技術を身に付ける。
9. めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
10. 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
11. 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
12. 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
13. 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書けるようにする。

14. 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
15. 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。
講義後、試験を実施

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

必要に応じて指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2. 国語科教育の意義と役割
3. 国語科の目標と内容
4. 学習指導要領に基づいた学習指導計画
5. 国語科の指導法と評価
6. 話すこと・聞くことの指導
7. 書くことの指導
8. 説明的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
9. 文学的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
10. 音読・朗読の指導
11. 伝統的な言語文化の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
12. 国語の特質に関する指導
13. 模擬授業(低学年)
14. 模擬授業(高学年)
15. これからの国語科教育の課題、まとめのテスト

授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法』コロ出版
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(模擬授業の準備やレポート等を含む)を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員・学校心理士			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展 1
3. 教育制度の歴史と発展 2
4. 子どもの権利と人権 1
5. 子どもの権利と人権 2
6. 教育制度を学ぶ意義 1
7. 教育制度を学ぶ意義 1
8. 教育法 1
9. 教育法 2
10. 教育の目的と目標
11. 学校の制度
12. 義務教育の制度
13. 教育の機会均等
14. 教職員の制度
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石田 伸子	選択	2	私立幼稚園教員			

授業の到達目標

乳幼児の「健康」を守ることの必要性を感じ取り、幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、心身ともに健康な生活ができるようになるには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

授業計画

1. 健康とは何か
2. 子どもの身体の発達
3. 子どもの運動の発達
4. 乳児期の運動
5. 運動遊び(実技)①(縄、新聞紙、ボールなどを使った遊び等)
6. 運動遊び(実技)②(大縄、フープを使った遊び。用具を使わない運動遊び等)
7. 運動遊び(実技)③(運動用具一平均台、跳び箱、マット等を使った遊び等)
8. 乳幼児期の安全教育と病気の予防
9. 乳幼児期の生活習慣の形成
10. 乳幼児期の遊びと運動
11. 乳幼児期の生活と「食」
12. 領域「健康」の理解と指導法
13. 領域「健康」をめぐる現代の諸問題
- 指導計画について
14. 指導計画作成から保育へ
15. 保育者の役割とまとめを行ってからテストをする

授業の方法

テキストに添って講義を進めるが、事例を多くとり入れ、理解しやすいようにする。ディスカッションや実技を取り入れ、主体的に体

得していけるようにする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

グループ発表後は、教員によるフィードバックを行う。実技の積極性、動きなどを評価する。平常点50% 定期試験50%とする。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

演習 保育内容 健康—基礎的事項の理解と指導法—河邊貴子・吉田伊津美編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

留意事項

実技①②③は、運動しやすい服装(名前がわかりやすい名札あるいはゼッケンをつけること)・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は未定。